



# 天文資料

2020年 4月号

令和2年度 第1号 (4月号)

令和2年3月26日

発行：佐世保市少年科学館  
佐世保市少年科学館



## ＜新型コロナウイルスの影響で休館、寂しい3月でした。＞

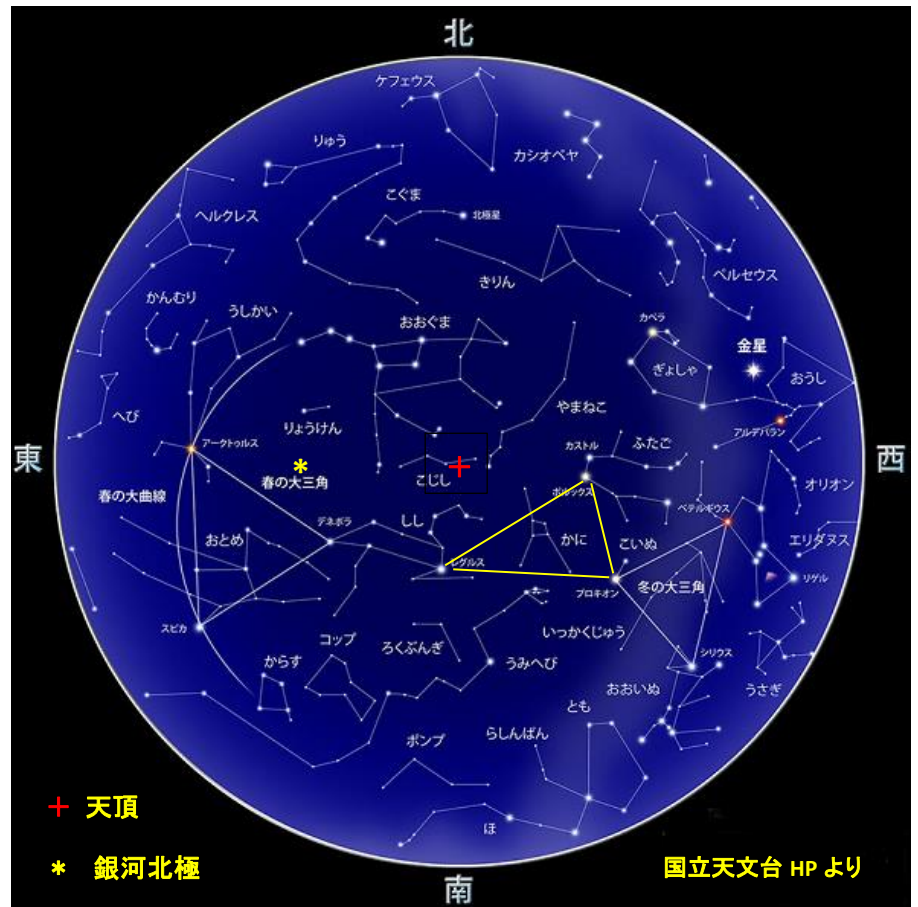
新型コロナウイルスが猛威を振るっています。週末はにぎわう科学館も3月中は休館でひっそりしていました。

4月には状況がよくなって、また賑わいが戻ってくることを願っているところです。

4月の星空は、まず頭の上を見上げましょう。

天頂付近にしし座があります。そこに輝く一等星レグルスは1.4等級、全天に21個ある一等星の中で最も暗い恒星です。(今年の冬はオリオン座ベテルギウスがとても暗くなったので20番目になったかも...)

そのレグルスと、西の方に見えるふたご座ポルクス、こいぬ座プロキオンを結ぶと、細長い三角形ができます。



冬の冬の大三角でも春の大三角でもない「冬と春をつなぐ大三角」になりますが、この中にかに座がありますのでぜひ探してみてください。

春の星空は、系外星雲がたくさん見られます。しし座デネボラとりょうけん座の間にかみのけ座という目立たない星座がありますが、その方向に銀河系の北極があります。この方向は銀河系の厚みのない方向で、光を妨げる星間ガスも少ないので非常に遠い宇宙を見ることができます。望遠鏡で見ても光のシミのようには見えませんが、写真撮影をするとたくさんの系外星雲が浮かび上がってきます。右の写真は、しし座にある銀河群(系外星雲のグループ)のひとつです。



## ＜「しずく型」に歪んでいる変光星が見つかる＞

明るさが変化する恒星は「変光星」と呼ばれていて、明るさが変わる仕組みによってさまざまな種類に分類されています。(食変光星・脈動変光星・激変星・爆発型変光星・回転変光星・X線変光星 など)

今回、星の表面の全体や一部が膨らんだり縮んだりすることで明るさが変わる「脈動変光星」の一種であるものの、その形が「しずく型」に歪んでいる変光星が見つかったとする研究成果が発表されました。ポーランドのニコラウス・コペルニクス天文センターGerald Handler氏らの研究チームがとびうお座 HD74423 と呼ばれる恒星を調べた結果、脈動変光星である主星の表面は伴星の潮汐力によって片側だけがだけが飛び出るように膨らんでいて、膨らんだ側のみが大きく脈動しているものと判断されました。



Image : Gabriel Perez

このような変光星の存在は1940年代には既に予想されていましたが、近年、主星と伴星が接近したときに潮汐力で楕円型に変形する際に明るさが変わる「ハートビート型」が見つかっています。しかし、潮汐力によって変形した片側だけが大きく脈動する変光星は今回が初めての発見になるといいます。(カナリア天体物理研究所 訳文：松村武宏さん より)